

## 学級活動（２）学習指導案

指導者 呉市立昭和北小学校 松本 万智子

- 1 日時・学年 令和元年12月11日（水）10：25～11：10（第1学年1組） 32名  
12月16日（月）10：45～11：30（第1学年2組） 32名  
12月5日（木）10：45～11：30（第1学年3組） 31名

- 2 題材 「気持ちを言葉で友だちに伝えよう」  
内容 （２） イ よりよい人間関係の形成

### 3 題材について

#### （１）児童の実態

本学年の児童は、友だちが困っていると声を掛けたり、進んでお手伝いをしたりすることができるようになってきている。「学級活動（１）」では、必要な係を話し合い、折り合いを付けながら、係分担を決めることで意欲的に活動できるようになった。また、「学級活動（２）」で学習した「６年生さんいってらっしゃい」では、お世話になっている６年生へ感謝の気持ちを込めたメッセージを書くことを通して、相手の気持ちを考えて文章を書くことの大切さを学ぶことができた。しかし、小学校低学年の発達段階における自己中心的な実態から、相手のことを考えずに思った言葉をすぐに口に出すことがある。また、うまく言葉で伝えられないときには、叩くなどの行動で、周りの友だちとの関係をこじらせ、良好な人間関係が築けていない児童もいる。友だちのよいところを見付けることができても、意見などの食い違いがあると、見付けていた相手のよさを忘れ、直感的に攻撃的な行動をしてしまう。自分や友だちのよさを認め合うという段階までに至っていないため、トラブルが起こるとい実態がある。こうしたことから、人と関わり合う社会的スキルがあまり高まっていないと考える。

#### （２）題材設定の理由

本題材は、小学校学習指導要領（平成29年告示）第6章特別活動に示されている、学級活動の内容（２）「イ よりよい人間関係の形成」を扱う。

小学校学習指導要領解説（平成29年告示）特別活動編には、よい人間関係の形成の指導として、「社会的スキルを身に付けるための活動を効果的に取り入れ」「児童が現実の生活の中で自主的、実践的によりよい人間関係を形成しようとするように配慮する必要がある。」と示されている。

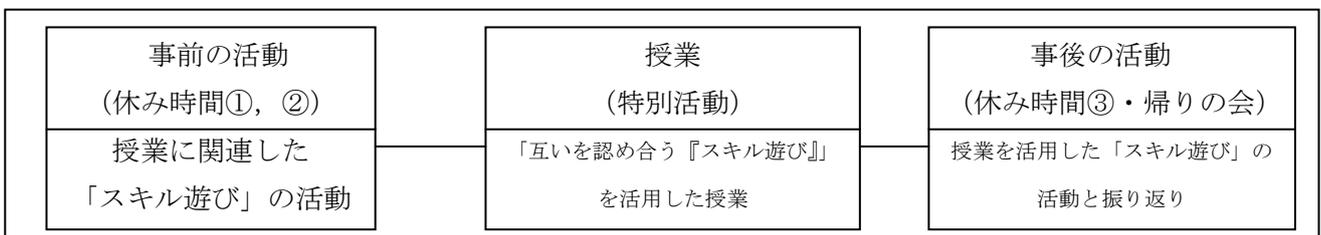
また、平成31年度広島県教育資料では、「小学校学習指導要領の総則、低学年の全教科及び特別活動に『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』を踏まえた指導を工夫することが示されたことにより、小学校において、幼児期の育ちや学びを意識した指導が、今後より一層、求められること」と述べている。

さらに、小学校学習指導要領解説（平成29年告示）特別活動編（平成30年）では、学級活動「（２）日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」における一連の指導過程の例を、「事前の活動」として授業において取り上げる問題の発見・確認を行い、「本時の活動」で解決方法等を話し合い、個人目標の意思決定を行わせ、「事後の活動」で意思決定を基に実践し振り返らせることと示されている。

荻野智久（平成23年）は学級活動において、集団社会的スキル訓練の学習を実施した際の課題として、SST（社会的スキル訓練）後に学習した行動が般化しにくいこと、CSST（学級単位の集団社会的スキル訓練）実施後も、社会的スキルの使用が支持され、承認される環境づくりがなされ、学級全体に社会的強化を提供していくことが重要になってくると述べている。

「遊び」には、もともといろいろな社会的スキルが詰まっているため、遊びを通してスキルを身に付ける「スキル遊び」を取り入れることが有効であると考え。「スキル遊び」は、生活と遊びを結び付けて、対人関係スキルを身に付けさせることができるものである。この活動を通して、児童にいろいろな気持ち（感情）があることに気付かせ、気持ちを言葉に置き換えさせ、自分の気持ちを言葉にして伝えることの大切さを学ばせることができると考える。また、言葉、場面及び表情等を整理した活動を通して、自分の生活を振り返らせ実践化させていくことができる。本題材で学ぶ、気持ちを言葉に置き換えて伝える力は、日常生活の多くの場面で汎用できると考える。

そこで、本題材では、幼児期に遊びの中で身に付けた、互いを認め合うスキルを、小学校低学年の発達段階に合わせて発展させる。「互いを認め合う『スキル遊び』を活用した授業」を、次のように、事前の活動と事後の指導を組み合わせて構成し、実施する。



#### 4 評価規準

| 観点   | 集団活動や生活への<br>関心・意欲・態度                   | 集団の一員としての<br>思考・判断・実践  | 集団活動や生活についての<br>知識・理解                           |
|------|---|--|---|
| 評価規準 | 自己の身の回りの問題に関心をもち、進んで日常生活や学習に取り組もうとしている。 | 学級生活を楽しくするために日常生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。 | 学習生活を楽しくすることの大切さ、そのための基本的な生活や学習の仕方などについて理解している。 |

#### 5 事前の活動

| 活動の場  | 児童の活動       | 指導上の留意点 (◇)<br>「努力を要する」状況と判断した児童への<br>指導の手立て (◆)   | 目指す児童の姿と<br>評価方法   |
|-------|-------------|--|--|
|       | ・アンケートに答える。 | ◇ コミュニケーションスキルのアンケート調査を行い、結果をまとめ、各学級及び学年の児童の実態を確認しておく。<br>◆ 質問を読み上げ、1問ずつ記入できているかを確認する。   | 【関心・意欲・態度】<br>・ 日頃の学校生活に課題意識をもっている。<br>(アンケート調査)                           |
| 休み時間① | ・氷鬼をする。     | ◇ 安全面の配慮として、滑り防止として体育館に入る前に濡れた雑巾で、上靴の裏を拭くようにさせる。<br>◇ 逃げられる範囲をビニールテープなどで示し、4角にミニカラーコーンを置いておく。<br>◇ ルールを理解し楽しく活動するために、氷鬼のルール①について、次のことを確認する。<br><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <b>氷鬼のルール①</b><br/>           ○鬼と逃げる役を決める。<br/>               (鬼の児童の帽子の色：赤)<br/>               (逃げる児童の帽子の色：白)<br/>           ○鬼にタッチされると凍る。<br/>               ・その場に腰を下ろして体操座りをする。このとき、膝と膝をくっつけて、膝が離れないように手で抱きかかえるようにする。<br/>           ○鬼にタッチされていない児童は、凍っている児童を両手で立ち上がらせてあげることで、助けることができる。<br/>               ・ペアで一度立ち上がらせる練習をする。<br/>           ○助けてもらった児童は、逃げたり、凍っている児童を助けたりすることができる。         </div><br>◆ ルールの説明のとき、ルールや氷鬼の流れが分かりやすいようにホワイトボードに提示しながら説明し、鬼が何班かを示し確認する。<br>◆ 氷鬼のスタートは笛1回で開始し、終了のときは笛3回でその場に座ることを確認する。<br>◆ 鬼は教師側に来て帽子の色を赤にしたことを確認し、スタートと同時に10まで一緒に数えて捕まえにいくよう確認する。<br>◆ ルールが把握できていないときには、声をかけて、一緒に活動をする。<br>◇ 次時に向けて、児童同士が言葉の関わり合いを行っているかを確認し、実態把握をする。 | 【関心・意欲・態度】<br>・ 友だちと楽しく活動している。(行動観察)<br><br>【知識・理解】<br>・ ルールを理解している。(行動観察) |

|              |                |  |   |
|--------------|----------------|--|---|
| <p>休み時間②</p> | <p>・氷鬼をする。</p> | <p>◇ ルールを理解し友だちと言葉を使った活動をするために、ルール②について、次のことを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>氷鬼のルール②</b></p> <p>○助けに行く児童は、助ける児童の名前を必ず言うように促す。</p> <p>○助けてもらった児童は、必ず「ありがとう。」と言うように促す。</p> </div> <p>◇ 休み時間①の氷鬼との違いをはっきりさせるため、休み時間②の氷鬼を「お話氷鬼」と名付けて活動する。</p> <p>◆ ルールが把握できていない時には、声をかけて、一緒に活動をする。</p> <p>◆ 「○○ちゃん」「ありがとう。」と声に出せない場合には、手を振ったり、頷いたりする行動でもいいことを伝える。</p> <p>◇ 児童同士が言葉による関わり合いを行っているかを確認し、関わり合いができているときには、肯定的評価を行う。</p> | <p><b>【知識・理解】</b></p> <p>・ ルールを理解している。(行動観察)</p> <p><b>【思考・判断・実践】</b></p> <p>・ 友だちと言葉を使った関わりを感じながら実践している。(行動観察)</p> |
|--------------|----------------|--|---|

6 本時のねらい

自分の気持ちを言葉で友だちに伝えようとする意欲を高める。

7 本時の展開

|          | 児童の活動  | 指導上の留意点 (◇)<br>「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て (◆)   | 目指す児童の姿と評価方法   |
|----------|--|--|--|
| つかむ      | 1 氷鬼をしたことを振り返る。  | ◇ 氷鬼をした感想を尋ねる。   |  |
| さぐる・見付ける | <p>2 「○○ちゃん」とか「ありがとう」と言われたときの気持ちを話し合う。</p> <p>3 氷鬼をするとき、他にも友だちに伝えられる気持ちはないか考える。</p> <p>4 考えたことを話し合う。</p> | <p>◇ 1回目の氷鬼と2回目の氷鬼(お話氷鬼)の違いについて気付いたことを尋ねる。</p> <p>◇ 友だちに言葉を伝えられたときの気持ちを尋ねる。</p> <p>◇ 言葉があったときとなかったときのどちらがよかったか、またその理由などを尋ねる。</p> <p>◆ 児童が発表した言葉を使って、ワークシートに書き込ませる。</p> <p>◆ ペアで「○○ちゃん」「ありがとう。」のやりとりをさせることで、その時の気持ちを想起させやすいようにする。</p> <p>◇ タッチされて凍っているとき、友だちを助けに行こうとしているときの場面の絵(第1次での活動写真)を提示することで、その状況のイメージをもたせ、考える意欲を高めさせる。</p> <p>◇ どんな気持ちの言葉が出てきそうか、ペアで話し、その後、全体で交流する。</p> <p>◇ 児童が発表した、場面の絵に沿って伝えられる気持ちの言葉を板書し、まとめていく。</p> | <p><b>【思考・判断・実践】</b></p> <p>・ 名前を呼ばれたり、「ありがとう」と言われたりして、どんな気持ちだったか考えている。(行動観察、発言)</p> |

|     |                                       |   |   |
|-----|---------------------------------------|---|---|
| 決める | 5 考えて出てきた気持ちの言葉を参考に、自分が伝えられそうな言葉を考える。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ タッチされて凍っているとき、友だちを助けに行こうとしているときの場面ごとに伝えられそうな言葉を決めて、次回の休み時間③の活動に向けての意欲につなげる。</li> <li>◆ 児童の意見を参考に一緒に伝えられそうな言葉を考える。</li> <li>◇ 日常生活の中で相手の名前を呼ぶことの大切さや「ありがとう。」という言葉をあらゆる場面で使っていることに気付かせ、これからの実践に向け、意欲を高める。</li> </ul> | <b>【思考・判断・実践】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校生活を楽しくするために話し合い、自分に合ったものを考え、判断し、実践しようという意欲をもっている。(発言・振り返りカード)</li> </ul> |
|-----|---------------------------------------|---|---|

## 8 事後の活動

| 活動の場  | 児童の活動   | 指導上の留意点<br>「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て(◆)  | 目指す児童の姿と評価方法   |
|-------|---|--|--|
| 休み時間③ | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 氷鬼をする。</li> </ul>                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 実際に授業で話して出てきた言葉を伝えてみようと言助言する。</li> <li>◆ 考えた言葉を伝え、実践するように促す。</li> <li>◇ 気持ちを言葉で友だちに伝えることができたか振り返りをさせる。</li> </ul>           | <b>【思考・判断・実践】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どんな気持ちの言葉が伝えられたのか考えている。(行動観察・発言)</li> </ul>                 |
| 帰りの会  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の気持ちを友だちや先生に伝えることができたか振り返る。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 帰りの会を利用して、1日を振り返り、自分の気持ちを伝えることができたか確認し、称賛したり励ましたりしながら、実践の継続化を図る。</li> <li>◆ 個別に振り返りを行い、称賛したり励ましたりしながら、実践の継続化を図る。</li> </ul> | <b>【思考・判断・実践】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友だちに気持ちを伝えてやりとりの交流を進んで実践している。(行動観察・発言・きもちのちょ金ばこ)</li> </ul> |
|       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アンケートをする。</li> </ul>                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ アンケート調査を行い、結果をまとめ、各学級及び学年の児童の実態を事前指導と比較する。</li> <li>◆ 質問を読み上げ、1問ずつ記入できているかを確認する。</li> </ul>                                 | <b>【関心・意欲・態度】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日頃の学校生活に課題意識をもっている。(アンケート調査)</li> </ul>                     |

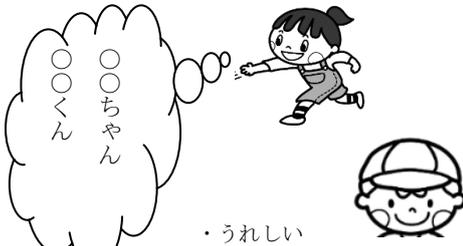
## 9 本時の板書計画

**めあて**

きもちをことばでともだちにつたえよう。

たすけに いているとき

たすけを まっているとき



○くん  
○ちゃん

・うれしい  
・また、たすけたい  
・こんどはたすけてあげたい  
・おいいをいいたい。



・まっててね  
・たすけるからね

・はやくきて  
・さびしいよ

**まとめ**

きもちをことばでつたえると、こころが  
あたたかくなった。

こおりおにで  
つたえられそうなことば

きもちの  
ことば